

学力向上推進のための取組（小学校）

1. 重点取組事項

- (1) 「わかる授業」づくりの推進【提言2】
- (2) 個に応じた指導の充実【提言3】【提言6】【提言7】
- (3) キャリア教育の視点を踏まえた、なりたい自分づくり
(15の旅立ちプロジェクト)【提言3】【提言5】
- (4) 自己肯定感の醸成・支持的風土のある学校・学級づくり【提言1】【提言4】
- (5) 考える力・読解力の育成【提言3】
- (6) 外国語活動能力及びコミュニケーション能力の育成【提言3】
- (7) 各種検定への積極的な取り組みの推進（切磋琢磨し合う環境づくり）【提言3】【提言6】
- (8) ワンランク上の学習の推進【提言3】
- (9) 逞しい心身の育成

令和4年度 沖縄県学力向上推進本部会議からの提言より

- 【提言1】「魅力ある学校づくり」の推進（方策1・2・3・4）
- 【提言2】授業の質的改善と学校改善の推進（方策1・4）
- 【提言3】「夢、なりたい自分」の実現へ向けたキャリア教育の充実（方策3・5）
- 【提言4】体力の向上及び部活動等の充実と適正化の推進（方策1・5）
- 【提言5】質の高い幼児教育及び円滑な幼小接続の推進（方策1・3・5）
- 【提言6】学校・家庭・地域等の連携を通して（方策5）
- 【提言7】社会の変化を捉えた教育の実現

学びの質を高める「5つの方策」

- 方策1 日常化する（質的授業改善）
- 方策2 そろえる（組織的共通実践）
- 方策3 支える（発達の支援）
- 方策4 見通す（学校組織マネジメント）
- 方策5 つなぐ（学校連携・地域連携）

2. 具体的な取組内容（指標）

(1) 「わかる授業」づくりの推進

- ①児童が「問い」を持ち、主体的に学ぶ授業づくり
「主体的に学びに向かう児童の育成」という研究テーマのもと、「問い」を生かした授業改善の取組。
一人一研究授業の実施（5月～11月）
- ②琉球大学教授を招聘した授業研究会の設定（年2回）
- ③島尻教育事務所指導主事を招聘した授業研究会の設定（年1回）

(2) 個に応じた指導の充実（各種調査における正答率標準以上、単元テスト正答率80%を目指す。）

- ①ICTの活用による個に応じた指導
・タブレットやAIドリル等を活用し、発展的な学習や補足的な学習の充実を図る。
- ②年3回（4月、9月、2月）の「頭をきたえる月間」の実施
4月 「渡名喜っ子のきまり」の周知徹底のため、学推担当による部会朝会等での確認を行う。
その後、「渡名喜っ子のきまりチェック」を行い意識を高める。
個に応じた学習を行い、学び直しの強化を図る。

9月・2月 家庭学習強化として、15日間の「家庭学習&生活リズム調べ」を行い、家庭と連携し、普段のがんばりにプラスαした学習（読書・調べ学習・苦手克服等）を推奨する。個に応じた学習（ICT活用）を行い、学び直しの強化を図る。

「渡名喜っ子のきまりチェック」（学習規律）を実施。
 (目標達成率80%) 4月~2月

家庭学習&生活リズム調べを実施し家庭と連携して各学年に応じた課題や+αした学習を推奨する。9月・2月

個に応じた学習（ICT活用）

渡名喜っ子のきまり

生活のやくそく

- ★あいさつ 「おはよう」「こんにちは」「さようなら」など、進んであいさつしましょう。
- ★整理整頓 持ち物や机・ロッカーの中などを整理・整とんする。
- ★時間を守る 授業が始まる2分前に席に着き、静かにする。

授業のやくそく

- ★聞く 話している人の目を見る。
- ★準備 休み時間に次の学習用具を準備する。
- ★姿勢 正しい姿勢で学習する。

家庭学習のやくそく

- ★学習内容の工夫 あえられた学習+α...A 考えられた学習をやった...B やらなかった、不足...C
- ★サイン 保護者のサインを必ずもらう。

学習用具のやくそく

- ★筆箱の中
 - 鉛筆 2本(2B・HB)
 - シャーペン(角型)
 - 消しゴム
 - 三角定規
 - 修正液
 - カッター
 - 定規
- ★ひきだしの中
 - のり
 - はさみ
 - クシ
 - コンパス
 - 三角定規
 - 分巻器
- ★音楽パックの中
 - 音楽の教科書・ノート
 - リコーダー
 - ※図録授業の入れ物に使用する

第1回「渡名喜っ子のきまり」生活リズム&家庭学習プラスα調べ

項目	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9
授業時									
家庭学習時									
読書時									
調べ学習時									
その他									

第2回「渡名喜っ子のきまり」生活リズム&家庭学習プラスα調べ

項目	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9
授業時									
家庭学習時									
読書時									
調べ学習時									
その他									

小学1年 20までのかず

10C 4+7 = □

10I 7+□ = 10

12I □ + 3 = 12

20I 10+□ = 20

□ + 1 = 2

□ + 2 = 3

□ + 3 = 4

□ + 4 = 5

□ + 5 = 6

□ + 6 = 7

□ + 7 = 8

□ + 8 = 9

□ + 9 = 10

□ + 10 = 11

□ + 11 = 12

□ + 12 = 13

□ + 13 = 14

□ + 14 = 15

□ + 15 = 16

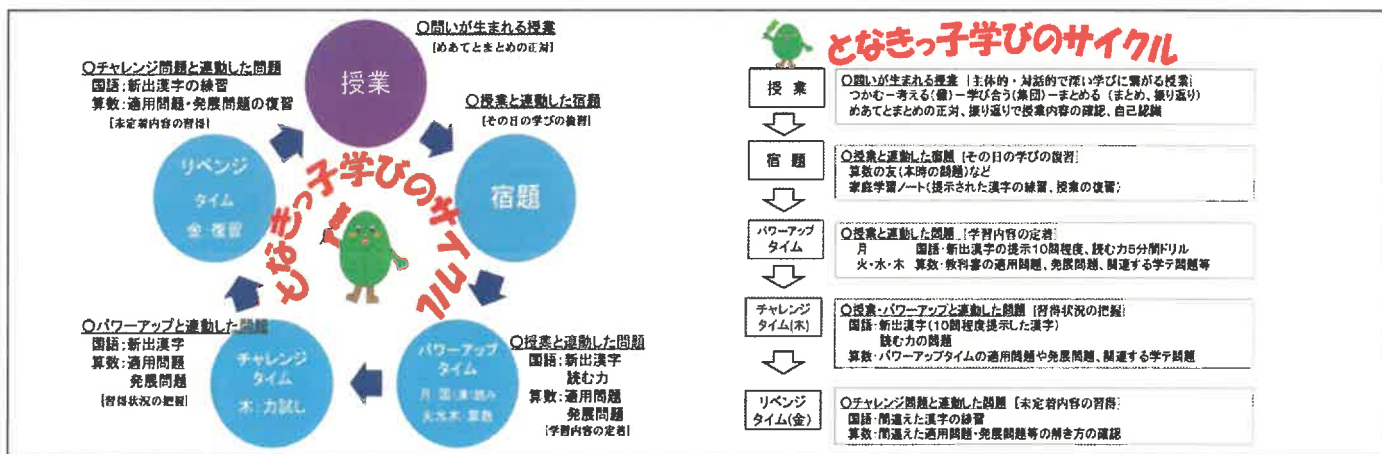
□ + 16 = 17

□ + 17 = 18

□ + 18 = 19

□ + 19 = 20

②「渡名喜っ子学びのサイクル」（授業と連動した宿題、確認問題・形成テストの実施）を通して、学習内容（基礎・基本）の学び残しをなくし、定着を図る。



③ 11月以降毎週金曜日の放課後に、職員全員での補習指導・支援を実施し、落ち込みのある領域の定着を徹底する。

④ 夏休み期間中の補習を実施

(3) キャリア教育の視点踏まえた、なりたい自分づくり（15の旅立ちプロジェクト）

「キャリアパスポート」を作成することにより、学年もしくは入学から卒業までの中・長期的な振り返りと、将来への展望や見通しが出来るようにする。

※毎学期キャリアパスポートの記入を行い、自分の足跡をふりかえる。

(4) 自己肯定感の醸成・支持的風土のある学校・学級づくり

- ① 5月の「心を見がく月間」を実施。連動した道徳の授業や人権擁護委員による人権教室、児童生徒会での「いじめ0宣言」を実施することで他者への思いやりを育て、いじめをしないという意識を高める。
- ② 11月・12月の「体をきたえる月間」を実施。チャレンジマラソンや大縄跳び大会を設定し、個人または集団で運動する楽しさや団結するすばらしさを味わい自己肯定感を高める。
- ③ 諸活動や行事等において、児童生徒が主体的に計画・運営の機会を多く設定し、自分の良さを発揮しながら他者と協力して取り組み、連帯感や充実感を味わわせるとともに、高学年や中学年のリーダーシップを育む。
- ④ 総合的な学習の時間に年間 **5回以上の SST**（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、より良い人間関係作りのための基礎的なスキルを身につけさせる。

※学校生活・いじめアンケートにおけるいじめ件数0件

※「学校が楽しい・充実している」児童100%

(5) 考える力・読解力の育成

- ① 読解力をつけるため、年間を通してトレーニングを実施。（毎週月曜日のチャレンジタイム）
- ② ビブリオバトルやブックトークといった読書意欲を高める活動の実施。 ※年3回
- ③ 図書の間年目標冊数の達成 ※（1・2年生120冊 3・4年生100冊 5・6年生80冊）

(6) 外国語活用能力及びコミュニケーション能力の育成

ALTを活用した授業づくり ※年間80%

(7) 各種検定への積極的な取組の推進（切磋琢磨し合う環境づくり）

漢字検定・数学検定・英語検定を奨励

※漢字検定受検率100%（年間での受検率）

(8) ワンランク上の学習の推進

家庭学習で教師に与えられた課題だけでなく、自分の好きな学習や苦手とする課題に取り組んだり、調べ学習に取り組んだりする+αを推奨する。

※家庭学習調べ期間中に7日間は+αに取り組んだ児童の割合50%

(9) 逞しい心身の育成

朝起き会などを利用してチャレンジマラソンに取り組む。走った距離を伸ばしてしていくことにより粘り強く挑戦する態度の育成と体力の向上を目指す。

※個に応じた目標を8割達成できた児童の割合80%

学力向上推進のための取組（中学校）

1. 重点取組事項

- (1) 「わかる授業」づくりの推進【提言2】
- (2) 個に応じた指導の充実【提言3・6・7】
- (3) キャリア教育の視点を踏まえた、なりたい自分づくり（15の旅立ちプロジェクト）
【提言3・5】
- (4) 自己肯定感の醸成・支持的風土のある学校・学級づくり【提言1・4】
- (5) 考える力・読解力の育成【提言3】
- (6) 外国語活動能力及びコミュニケーション能力の育成【提言3】
- (7) 各種検定への積極的な取組の推進（切磋琢磨し合う環境づくり）【提言3・6】
- (8) ワンランク上の学習の推進【提言3】

令和4年度 沖縄県学力向上推進本部会議からの提言より

- 【提言1】「魅力ある学校づくり」の推進（方策1・2・3・4）
- 【提言2】授業の質的改善と学校改善の推進（方策1・4）
- 【提言3】「夢、なりたい自分」の実現に向けたキャリア教育の充実（方策3・5）
- 【提言4】体力の向上及び部活動等の充実と適正化の推進（方策1・3・5）
- 【提言5】質の高い幼児教育及び円滑な幼小接続の推進（方策1・3・5）
- 【提言6】学校・家庭・地域等の連携を通して（方策5）
- 【提言7】社会の変化を捉えた教育の実現

学びの質を高める5つの方策

- 方策1 日常化する（質的授業改善）
- 方策2 そろえる（組織的共通実践）
- 方策3 支える（発達の支援）
- 方策4 見通す（学校組織マネジメント）
- 方策5 つなぐ（学校連携・地域連携）

2. 具体的取組内容（指標）

(1) 「わかる授業」づくりの実践

- ①学校の実態に応じた研究テーマの設定及び、一人一授業の実施（5月～11月）
- ②島尻教育事務所指導主事を招聘した授業研究会の実施（年1回）
- ③特別支援教育実践研修（年1回）

(2) 個に応じた指導の充実

①頭をきたえる月間の実施（年3回）

- ・毎週末に「渡名喜中生7つの力チェック表」を記入し、意識を高める。月間終了後に振り返りを行い、反省を次回に活かす。（項目ごとの評価Aを80%以上）
- ・定期テスト2週間前から家庭学習2ページを推奨する。（全員提出100%）

- ・定期テスト前に「積小為大旬間」を設け、補習指導を行う。(全員参加1時間程度実施)

②家庭学習の取組

- ・授業で行った学習のポイントを復習し、学力の定着を図る。
- ・家庭学習内容の確認及び評価は教科担任が行い、激励コメントやアドバイス等を記入して、生徒の学習意欲や学習の質の向上を図る。(A評価80%以上、C評価は個別指導を行う)
- ・授業内容に対応するワークの範囲は、生徒自身で計画的に進めさせる。

③基礎的・基本的事項の定着

- ・定期テストにおいて、各教科正答率70%以上

③毎週木曜日の放課後に、学年ごとに職員1人を割り当て、「チャレンジタイム」を行う。(毎週20分程度実施)

(3) キャリア教育の視点を踏まえた、なりたい自分づくり (15の旅立ちプロジェクト)

①先輩に学ぶ講演会・上級学校訪問の実施 (年1回ずつ実施)

(4) 自己肯定感の醸成、支持的風土のある学校・学級づくり

①心をみがく月間の実施 (5月)

- ・いじめ0宣言を実施し、他者への思いやりの心を育てる。

(学校生活・いじめアンケートにおけるいじめ件数0件)

②委員会活動等において幼小中の連携を図りながらリーダーシップを育む活動の充実を図る。

③総合的な学習の時間にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、人間関係作りの基礎スキルを身につけさせる。(年5回以上実施)

(5) 考える力・読解力の育成

①読書活動

- ・火・水・木曜日に、朝読書を各教室で行い、読書習慣を定着させる。(週3回、

- ・年間読書冊数40冊を達成生徒8割以上。

(6) 外国語活用能力及びコミュニケーション能力の育成

ALTの活用(年間80%実施)

(7) 各種検定への積極的な取組の推進(切磋琢磨しあう環境づくり)

英語検定100%、漢字検定80%、数学検定60%の受検率。

(8) ワンランク上の学習の推進

家庭学習で教師に与えられた課題だけでなく、自分の苦手な教科の学習を増やしたり、タブレットを活用して苦手克服に努めるなど、自分の成長のため+αの学習を推奨する。

(頭をきたえる月間中に+αの学習に5日以上取り組んだ生徒50%以上)